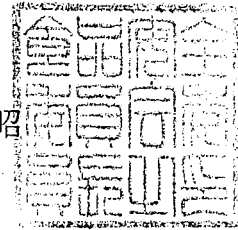




府食第281号の2
平成16年 3月11日

厚生労働大臣
坂口 力 殿

食品安全委員会
委員長 寺田 雅昭



厚生労働省発食安第0825002号に係る食品健康影響評価の
結果の通知について

平成15年8月25日付け厚生労働省発食安第0825002号をもって貴省より当委員会に対して意見を求められた飼料添加物アスタキサンチン及びカンタキサンチンの食品健康影響評価の結果は下記のとおりですので通知します。なお、各種試験結果概要及び評価結果をまとめたものを添付します。

記

1. アスタキサンチンの一日許容摂取量を設定しない。
2. カンタキサンチンの一日許容摂取量を 0.025mg/kg 体重/日と設定する。

(別添1)

飼料添加物アスタキサンチンに係る食品健康影響評価について

(略)

飼料添加物カンタキサンチンに係る食品健康影響評価について

1 はじめに

食品安全委員会は、食品安全基本法（平成15年法律第48号）に基づき、農林水産大臣から飼料添加物カンタキサンチンに関する基準・規格を改正することに係る食品健康影響評価（平成15年8月25日付け15消安第1321号）について、厚生労働大臣から当該飼料添加物の食品中の残留基準の設定に係る食品健康影響評価（平成15年8月25日付け厚生労働省発食安第0825002号）について意見を求められた（平成15年8月25日に関係書類を接受。）。

本件に関しては、農林水産省の第6回及び第8回農業資材審議会飼料分科会安全性部会（平成15年2月18日及び平成15年6月27日開催）、第2回同部会養魚委員会（平成15年3月13日開催）において審議されており、その結果、飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律（昭和28年法律第35号。以下「飼料安全法」という。）の対象家畜等に養殖水産動物を追加することに伴う、当該飼料添加物に係る飼料一般の成分規格を改正することについて了承されている。

2 農林水産省の飼料添加物カンタキサンチンに関する基準・規格等の改正の概要

(1) 対象家畜等の拡大

飼料安全法の規制対象となる「家畜等」は、食用に供すること等を目的とした経済動物であり、飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律施行令（昭和51年政令第198号）に定められている。現在、水産動物では、「ぶり、まだい、ぎんざけ、こい（農林水産大臣が指定するものを除く。）、うなぎ、にじます及びあゆ」の7魚種が指定されている。

しかしながら、近年の養殖技術の確立、種苗供給の国際化等により、飼料安全法の対象外の養殖水産動物の生産量が増加し、種類が多様化していることから、養殖水産動物の安全性を確保するため、食用に供する目的で養殖されている水産動物を包括的に規制の対象とする予定である。

(2) 飼料添加物カンタキサンチンに関する飼料一般の成分規格の改正

飼料添加物カンタキサンチンは、平成14年4月に飼料添加物として指定され、養殖水産動物等の色調強化を目的として、飼料の栄養成分その他の有効成分の補給の用途に用いられており、現在、飼料一般の成分規格として次の事項が定められている。

- ① 鶏、ぎんざけ及びにじますを対象とする飼料以外の飼料は、飼料添加物であるカンタキサンチンを含んではならない。
- ② 飼料添加物であるカンタキサンチンの飼料中の含有量は、飼料1トン当たり80g以下でなければならない。

(1)の飼料安全法の規制対象家畜等の拡大にあわせて飼料一般の成分規格を改正し、飼料添加物カンタキサンチンを含む飼料の対象魚種を「さけ科魚類及び甲殻類」に拡大するとともに飼料1トンあたりの含有量を定める予定である。

3 飼料添加物カンタキサンチンの概要

(1) 名称【参照文献1、2】

カンタキサンチン (canthaxanthin ; β, β -carotene-4,4'-dione)